



全労連青年部ニュース

YOUTH TOPIC



つながる・たたかう・支えあう青年部を

ホームページ<http://www.zenroren.gr.jp/jp/seinen/>ブログ<http://blogs.yahoo.co.jp/zenrourenpower>

全労連青年部とは??? 9単産19地方組織の青年部が集まって、青年労働者の声を集め、学習や最低賃金引き上げ、他の青年団体と一緒に雇用、核兵器廃絶・平和などの問題に取り組んでいる労働組合のナショナルセンターです。

卒業式宣伝in武道館



日本武道館(東京・千代田区)で行われた法政大学第132回学位授与式に合わせ東京地評では、30人で卒業式宣伝を行い、2000枚のティッシュと権利手帳を配布しました。宣伝では「この働き方はおかしいな?と思ったら権利手帳の後ろに書いてある労働相談ホットラインに電話をして下さい。人間らしく働ける環境を作るにはまずは労働組合に入ることから」「目標や夢をもって働き続けるために。

私たちからエールを送ります。働きながら生活していく中では、困ったことや辛いことがときには訪れます。しっかり休んで体の調子を整え、充実した社会人生活を送るため必要なことばかりです。是非、この手帳をご活用ください」と訴えました。(写真2枚:宣伝の様子)



各地で様々な取り組み...



卒業式宣伝だけでなく、成人式宣伝、新社会人宣伝、様々な宣伝行動が取り組まれています。

大学の卒業式で県労連や地域労連、青年部が権利手帳配布行動を行っています。また大学教職員組合が卒業式宣伝を行う予定もそれぞれあるようです。岩手では3月24日に岩手大学で卒業式宣伝、広島では3月19日に広島経済大学、および県立広島大学での卒業式権利手帳配布行動、大阪では4月20日に新社会人

に向けて商店街などでハンドマイクを使いながら権利宣伝、愛知ではフレッシュアーズ宣伝を4月1日に市職労などと一緒にオフィス街で権利手帳を使って行きます。徳島では、大学教職員組合が宣伝行動を予定しています。各地の取り組みを全国発信していきたいと思いますので、情報がありましたらおよせください。(写真は広島の卒業式宣伝)

【全労連青年部では!!】「新社会人宣伝行動」

日時: 2014年4月1日(火) 18時~20時

場所: 池袋駅東口

内容: 人数に応じて複数個所に分かれてハンドマイクで訴え、権利手帳やシール投票で対話しながら、音楽もかけながら楽しく訴えようと思いません。是非、各地でも取り組みましょう!!

忘れない「3・11」キャンドルプロジェクト

あの日から3年。家族や友人を津波被害で失った多くの被災者は悲しみを胸にこれからも生きていかなければなりません。震災当時に比べ、報道はほとんどされなくなり記憶からも薄れて行く今、私たちは何が出来るのか問われていると思います。2014年3月11日、全労連青年部はじめ個人で構成する実行委員会の呼びかけで開催した「キャンドルプロジェクト」は、渋谷の代々木公園のケヤキ並木道で19時から集会を行いました。犠牲者の追悼、復興への決意、原発のない社会の実現を願ってキャンドルを灯しました。主催者を代表して柳田さんは「震災のことを決して忘れず、防災と減災に生かすことで、私たちのなかで、街のなかで、犠牲者にもう一度生きてもらうことが自分にできることだと思う」と話しました。130人が参加しました。集会では参加者が次々とマイクを握り思いを訴えました。



涙が止まらない

震災後、石巻市の大川小学校を訪れたという、中学3年生は、「私は当時小学6年生だった。同い年の人が津波でたくさん亡くなったと知って涙が止まらなかった」と発言。被災地の高校生との交流に触れ「この苦しみをなぜ高校生が味あわなければいけなかったのか、東京の高校生にも知ってほしいし、私たちも伝えていきたい」と決意を述べました。

高校生は「危ないと分かっていた国と東電は完全な犯罪。3・11までは原発事故は知らなかったけれど、原発の被害を、単なる悲劇にするのか、無知を反省して同じ過ちが起きない社会にできるかどうかは私たちの行動にかかっている。原発が無くなるまで行動していきたい」と話しました。

集会では参加者が次々とマイクを握り思いを訴えました。

震災後、石巻市の大川小学校を訪れたという、中学3年生は、「私は当時小学6年生だった。同い年の人が津波でたくさん亡くなったと知って涙が止まらなかった」と発言。被災地の高校生との交流に触れ「この苦しみをなぜ高校生が味あわなければいけなかったのか、東京の高校生にも知ってほしいし、私たちも伝えていきたい」と決意を述べました。

被災地に思いを寄せて

津波で友人2人亡くした



友人2人を津波で亡くしてしまったことにふれ「3年経ったいま、『忘れない』というフレーズがこれから一番大切になる。1人ひとりがすごいことをできるわけじゃないけれど、忘れないで震災や亡くなった方々を語り継いでいきたい」と語る石巻市出身の労働者の三浦慶範さん（左写真）



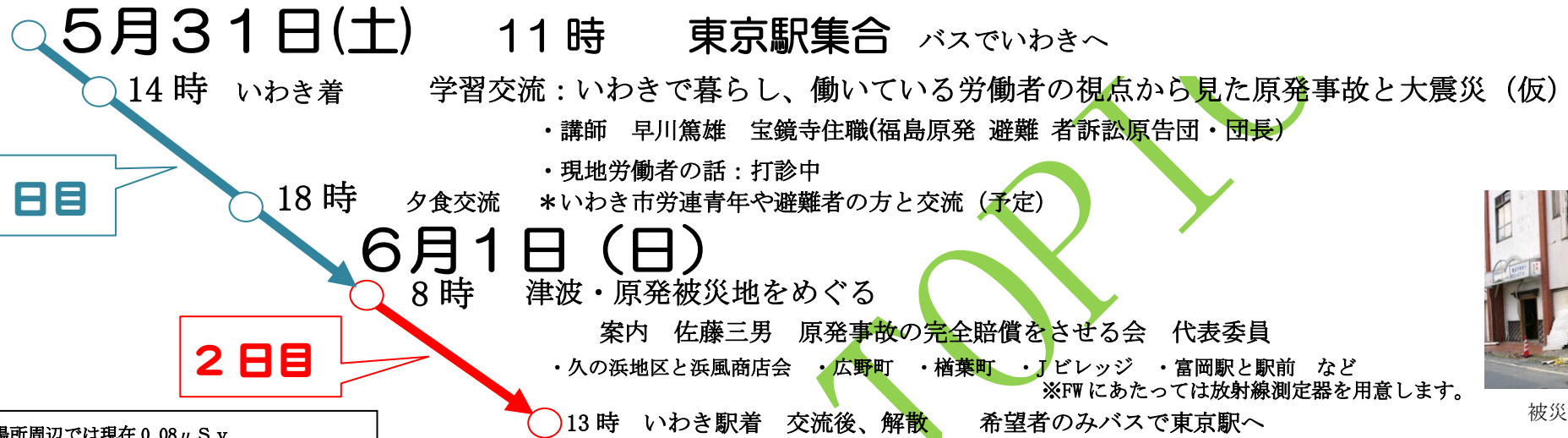
佐藤聡さん（呼びかけ人・福島出身）は被災地は手つかずのままにあること、いわき市では避難者との間で分断が起きていること、東京オリンピックの報道への悔しさを述べ「自分にできることはまわりの人に伝えること。ぜひ、一度原発周辺を見てほしい」と訴え、避難先で亡くなった親戚に触れ、「生きている内に帰れず、亡くなくても帰れない。こんな無念なことはない。今日だけでなく、明日以降も被災地を忘れず心をよせてください」と参加者に呼びかけました。

ユニオンニュースアカデミー5/31日(土)~6/1(日)開催

全労連青年部は今年もユニオンニュースアカデミーを開催します。今年は福島の被災地を視察し、現地で暮らす労働者の話を聞きます。あの日から3年。東日本大震災では、津波などによって多くの方が家族や友人や恋人を亡くしています。また原発事故によって避難している方も大勢います。いまだに多くの方が仮設住宅で過ごしています。帰宅困難区域などでは津波の後片付けもままならないため、いまだに手がつけられていない現状もあります。津波被害者の中には、「原発ばかり話題になっているが津波の被害は忘れられているのではないか」という声や、人によって受けられる支援が違っていたりという中で分断が生じているなど、様々な問題が起きています。改めて、原発事故がもたらした被害とはどんなものなのか、復興が進まない原因は何なのか見つめ直す機会にし、地元で生き続け働きたいということがどういうことなのかを伺い、今後の青年部の取り組みや各地の取り組みに活かすことを目指します。

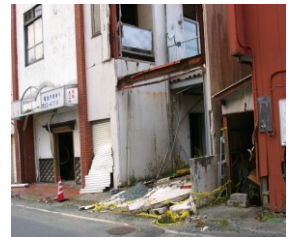
⇒チラシ3面

全労連青年部 ユニオンユースアカデミー2014in 福島



宿泊場所周辺では現在 $0.08 \mu S v$
食材は国の基準値以下のものを使用しています。
各人ご了解の上、ご参加ください。

2011年3月11日、東日本大震災、福島第一原子力発電所の過酷事故から3年。放射能汚染水漏れなど、事故収束の目処も立たず、いまだに14万人（原発事故による避難者数）もの人々が十分な補償も受けられないままの避難生活を余儀なくされています。原発事故がもたらした被害とはどんなものなのか、復興が進まない原因は何なのか見つめ直す機会にし、地元で生き続け働き続けるということがどういうことなのかを伺い、今後の青年部の取り組みや各地の取り組みに活かすことを目指します。



被災した富岡町



骨組みだけになった高校の体育館
(コースには入っていません)



富岡駅



時間が止まったままの
富岡駅前通りの美容室の時計

参加費 全日程参加(宿泊付) 12,000円(夕食・朝食付、5/31・6/1 昼食付)
全日程参加(宿泊無) 5,000円(夕食付)
日帰り 1,000円

宿泊地 新舞子ハイツ 福島県いわき市平下高久字南谷地 16-4

電話:0246-39-380

○単産・地方組織を通じて申し込んでください。

問い合わせ 全労連青年部 担当：五十嵐、栗原、梅井

Tel : 03-5842-5611 Fax : 03-5842-5620 Mail : youth@zenroren.gr.jp